

保育園児をもつ父親と母親の育児ストレスと不安の比較

¹⁾ 鳥取大学医学部保健学科地域・精神看護学講座 (主任 吉岡伸一教授)

²⁾ 帝京平成看護短期大学看護学科

³⁾ 鳥取大学医学部保健学科母性・小児家族看護学講座

立林春彦^{1,2)}, 西村正子³⁾, 吉岡伸一¹⁾

Comparison of parenting stress and anxiety state in fathers and mothers caring for nursery school children

Haruhiko TATEBAYASHI^{1,2)}, Masako NISHIMURA³⁾, Shin-ichi YOSHIOKA¹⁾

¹⁾ *Department of Nursing Care Environment and Mental Health, School of Health Science, Faculty of Medicine, Tottori University, Yonago 683-8503, Japan*

²⁾ *Teikyo Heisei Nursing Junior College, Ichihara 290-0192, Japan*

³⁾ *Department of Women's & Children's Family Nursing, School of Health Science, Faculty of Medicine, Tottori University, Yonago 683-8503, Japan*

ABSTRACT

The purpose of this study was to evaluate stress and anxiety state in parents caring for nursery school children. A questionnaire survey on parenting stress using the Parenting Stress Index (PSI) and anxiety state using the State-Trait Anxiety Inventory (STAI) was conducted on fathers and mothers of children who went to nursery school in Tottori, Shimane, Okayama, and Hiroshima Prefectures. Responses from 304 fathers and 415 mothers were statistically analyzed. As a result, mothers reported significantly higher total PSI and Child Domain scores than fathers. In addition, the total STAI scores, the STAI-state and -trait scores for mothers were significantly higher than those for fathers. In both fathers and mothers, a significantly positive correlation was found among total PSI, and Child and Parent Domain scores, total STAI, and STAI-state and -trait scores. In fathers, there was a significant difference in the age of their children for anxiety state. In mothers, there was a significant difference in their workplace for parenting stress and anxiety state. The present results indicated that mothers had higher parenting stress and anxiety state than fathers. So, it is necessary that fathers and the whole society cooperate in childcare in order to reduce parenting stress and anxiety for the mother.

(Accepted on January 31, 2012)

Key words : parenting stress, anxiety state, father, mother, nursery school children

はじめに

我が国は、急速な少子化と高齢化が同時に進行している。夫婦のみの世帯や単独世帯の割合が増加するとともに、国民一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、多様な生き方を選択・実現し、就労と生活の調和が求められている。このような理想の社会の実現を目指すなかで、子どもが生まれても、育児をしていくことに困難感を持っている母親が多いとされる。近年、働きながら育児をする女性が増えているが、父親や家族の協力が得られず、母親が一人で育児を担うことが多い。社会構造の変化が進む中で、以前と比べ、育児や家事などに父親が協力するようになりつつあるが、父親や家族のなかには、育児は母親が担うものだという意識が依然として残っている。育児で受けるストレスや不安についての研究も母親を対象にしたものが多く、父親の育児に関する研究は、柳原²⁾の報告もあるが、数的には少ない。育児への支援を社会全体で取り組んでいくためには、母親や父親が育児でどのようなストレスや不安を受けているかを明らかにしていく必要があると考える。

そこで、今回、保育園児をもつ父親と母親の育児ストレスや不安状態を調査した。そして受けたストレスや不安がどのような要因と関連しているのかについて検討した。

対象および方法

対象

対象は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県の公立の保育園に通う児を持つ父親と母親である。

調査方法

調査は、鳥取県の4施設、島根県の4施設、岡山県の1施設、広島県の1施設の公立保育園児の親で、各市の担当者と保育園の責任者に依頼して、無記名自記式調査票を用いたアンケート調査を行った。なお、調査は、2008年4月～2009年4月に実施した。

調査内容

調査票の内容は、年齢、性別、子どもの性別、子どもの年齢、職業の有無、職種、住まい、家族構成などの属性に加え、育児ストレスと不安状態からなる。

1) 育児ストレス

育児ストレスは、Abidin³⁾が開発したParenting Stress Index (PSI)³⁾の日本版PSI^{4,5)}を用いて評価した。日本版PSIは原版101項目のうちの78項目から構成されている。子どもの特徴に起因するストレスを測定する「子ども側面ストレス」は38質問項目、親の特徴に起因するストレスを測定する「親側面ストレス」は40質問項目である。回答形式は各項目とも「まったく違う」1点、「違う」2点、「どちらとも言えない」3点、「そのとおり」4点、「まったくそのとおり」5点、の5段階評定を用い、得点が高いほど、育児ストレスが高いことを示す。

2) 不安状態

不安状態は、Spielbergerが開発した不安度を測定するState-Trait Anxiety Inventory (STAI)⁶⁾を、日本人用に標準化した新版STAI状態-特性不安検査 (State-Trait Anxiety Inventory-JYZ)⁷⁾(以下、新版STAI)を用いて評価した。新版STAIは、短時間に誘発される不安を評価する「状態不安尺度」と、人格ともいうべき生来もっている不安を評価する「特性不安尺度」の各々20項目、計40の質問項目から構成されている。回答形式は4段階評価で、状態不安尺度は、「全くあてはまらない」1点、「いく分あてはまる」2点、「かなりよくあてはまる」3点、「非常によくあてはまる」4点で、特性不安尺度は、「ほとんどない」1点、「ときどきある」2点、「たびたびある」3点、「ほとんどいつも」4点で、得点が高いほどそれぞれの不安が高いことを示す。また、状態不安尺度と特性不安尺度は、合計得点の低い順から1～5の5段階に分けられている。

調査用紙収集方法

調査対象の市の担当者に直接、調査内容の説明を行い、調査協力の承認を得たのち調査票を必要数に区分して預けた。調査用紙は一部ずつ封筒に入れて配布し、調査用紙の表紙に、母親と父親は別に答えること、2人以上の児が通園している場合は1人の児について答えること、提出期限と調査用紙が入っていた封筒に入れて提出することを記した。

市の担当者を通じ、公立保育園の責任者が親に調査票を配布し、記載された調査票を各市の担当者から直接回収した。

分析方法

統計処理及び分析には、SPSS ver11.0 for

Windowsを使用した。結果は、平均値 ± 標準偏差で表した。属性については、父親と母親に分けて単純集計した。また、それぞれの尺度得点の平均値および新版STAIの段階別の状態不安と特性不安をMann-WhitneyのU検定を用いて比較検討した。さらに、性別と子ども側面ストレス・親側面ストレス・育児ストレス・状態不安尺度・特性不安尺度・不安尺度のそれぞれの相関をSpearmanの順位相関係数で検定を行い、父親と母親別に尺度得点と属性別の比較をMann-WhitneyのU検定とKruskal-Wallisの検定を用いて比較した。Kruskal-Wallisの検定で有意差が認められた場合、多重比較にはBonferroni法を用いた。尺度の信頼性について、Cronbachの α 係数を算出した。なお、有意確率が0.05未満を統計学的に有意であると判定した。

倫理的配慮

調査用紙は無記名回答とし、研究に協力しなくても何ら不利益を受けないこと、調査結果は研究目的以外に使用しないこと、個人が特定できるような内容は発表しないことを事前に担当者に説明し、同様の文言と研究者の連絡先を調査用紙に記した。

保育園の責任者から研究者に対して、保育園児が両親と片親とでアンケートを渡す数が違うことを疑問に思う恐れがあるので、すべての保育園児にアンケートを2部ずつ配るようにしてほしいという要望があった。研究者は要望通りにすべての保育園に保育園児の数の2倍のアンケートを配布した。

なお、本研究は、鳥取大学医学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。

結 果

保育園児720人の親を対象に、1440部の調査用紙を配布し、805人(55.9%)から回答があった。このうちの性別が不明なものや回答をしていないものなどを除いた父親304人(42.2%)と母親は415人(57.6%)の719人(有効回答率49.9%)を分析対象とした。

対象者の属性

対象者の父親と母親の属性を表1に示す。

1) 父親

子どもは、男児164人、女児128人で、子どもの年齢は、5歳代が最も多く、次いで4歳代、3歳代

の順で、平均年齢は 3.3 ± 1.6 歳であった。子どもの数は2人、1人、3人の順であった。

親は、年代別では30歳代が最も多く、次いで40歳代、10~20歳代の順で、平均年齢は 35.0 ± 1.6 歳、職業は会社員が235人で全体の77.3%で、次いで公務員、自営業の順であった。また、住まい、家族構成、地域環境、最終学歴で多かったのは、それぞれ一戸建てが185人、核家族が197人、住宅地域に居住しているのが184人であり、いずれも60%を超え、最終学歴は高校が155人で51.0%であった。

2) 母親

子どもは、男児205人、女児203人で、子どもの年齢は、5歳代が最も多く、次いで4歳代、3歳代の順で、平均年齢は 3.4 ± 1.5 歳であった。子どもの数は2人、1人、3人の順であった。

親は、年代別では、30歳代が最も多く、次いで10~20歳代、40歳代の順で、平均年齢は 32.6 ± 5.0 歳、職業では、パートが157人、会社員が143人、次いで主婦が39人の順であった。また、住まい、家族構成、地域環境、最終学歴で多かったのは、それぞれ一戸建てが245人、核家族が271人、住宅地域に居住しているのが251人で、いずれも60%を超え、最終学歴は高校が172人で41.4%であった。

育児ストレス尺度得点の父親と母親の比較

父親と母親のPSI総得点と下位尺度のPSI子ども側面得点とPSI親側面得点を表2に示す。

PSI全体のCronbachの α 係数は、父親0.535、母親0.915、全体0.709であった。

PSI総得点は、父親は 180.2 ± 40.8 、母親は 187.0 ± 33.0 で、母親が父親に比べて有意に高かった($p < 0.01$)。下位尺度のPSI子ども側面得点は父親と母親間で有意差はみられなかったが、PSI親側面得点は母親が父親に比べて有意に高かった($p < 0.001$)。

不安尺度得点の父親と母親の比較

父親と母親のSTAIの総得点と下位尺度の状態不安尺度得点と特性不安尺度得点、状態不安段階と特性不安段階を表3に示す。

STAI全体のCronbachの α 係数は、父親0.748、母親0.816、全体0.793であった。

STAI総得点は、父親は 82.1 ± 16.4 、母親は 87.1 ± 18.7 で、母親が父親に比べて有意に高かった($p < 0.01$)。下位尺度の状態不安は母親が父

表1 対象者の属性

属性	項目内訳	父親 (n = 304)		母親 (n = 415)	
		n	%	n	%
子どもの性別	男児	164	53.9	205	49.4
	女児	128	42.1	203	48.9
	不明	12	4.0	7	1.7
子どもの年齢	平均年齢 (歳)	3.3 ± 1.6		3.4 ± 1.5	
	0歳代	13	4.3	11	2.7
	1歳代	41	13.5	48	11.6
	2歳代	43	14.1	65	15.7
	3歳代	65	21.4	80	19.3
	4歳代	57	18.8	85	20.5
	5歳代	72	23.7	103	24.8
	6歳代	13	4.3	23	5.5
子どもの数	1人	82	27.0	120	28.9
	2人	135	44.4	186	44.8
	3人	76	25.0	96	23.1
	4人	6	2.0	10	2.4
	5人以上	5	1.6	3	0.7
親の年齢	平均年齢 (歳)	35.0 ± 1.6		32.6 ± 5.0	
	10~20歳代	47	15.5	121	29.2
	30歳代	201	66.1	255	61.4
	40歳代	49	16.1	39	9.4
	50歳代	7	2.3	0	0.0
職業	有	246	80.9	358	86.3
	無	1	0.3	46	11.1
	不明	57	18.8	11	2.6
勤務先	会社員	235	77.3	143	34.5
	公務員	37	12.2	37	8.9
	自営業	28	9.2	15	3.6
	パート	1	0.3	157	37.8
	主婦 (主夫)	1	0.3	39	9.4
	学生	0	0.0	2	0.5
	不明	2	0.7	22	5.3
住まい	一戸建て	185	60.9	245	59.0
	集合住宅	112	36.8	163	39.3
	不明	7	2.3	7	1.7
家族構成	核家族	197	64.8	271	65.3
	拡大家族	107	35.2	144	34.7
地域環境	住宅地域	184	60.5	251	60.5
	商店の多い地域	16	5.3	19	4.6
	工場の多い地域	1	0.3	1	0.2
	田園地域	58	19.1	81	19.5
	団地	28	9.2	31	7.5
	その他	4	1.3	9	2.2
	不明	13	4.3	23	5.5
最終学歴	中学校	22	7.2	17	4.1
	高校	155	51.0	172	41.4
	専門学校	33	10.9	60	14.5
	高等専門学校	9	3.0	9	2.2
	短大	7	2.3	101	24.3
	大学	69	22.7	45	10.8
	その他	5	1.6	2	0.5
	不明	4	1.3	9	2.2

表2 父親と母親の育児ストレスの比較

尺度	父親 (n = 304)	母親 (n = 415)	P値
PSI子ども側面	87.1 ± 30.3	85.0 ± 16.7	0.407
PSI親側面	93.1 ± 19.5	101.9 ± 20.9	< 0.001 ***
PSI総得点	180.2 ± 40.8	187.0 ± 33.0	0.006 **

Mann-WhitneyのU検定. **: P < 0.01, ***: P < 0.001

表3 父親と母親の不安の比較

尺度	父親 (n = 304)	母親 (n = 415)	P値
STAI状態不安	41.3 ± 9.3	44.1 ± 10.0	< 0.001 ***
STAI特性不安	40.9 ± 8.9	43.0 ± 10.1	0.007 **
STAI総得点	82.1 ± 16.4	87.1 ± 18.7	0.001 **
STAI状態不安段階	2.5 ± 0.9	2.5 ± 1.0	0.295
STAI特性不安段階	2.3 ± 0.9	2.8 ± 1.0	< 0.001 ***

Mann-WhitneyのU検定. **: P < 0.01, ***: P < 0.001.

表4 父親と母親の各尺度得点の相関

	尺度	PSI子ども側面	PSI親側面	PSI総得点	STAI状態不安	STAI特性不安	STAI総得点
父	PSI子ども側面	1					
	PSI親側面	0.620***	1				
	PSI総得点	0.897***	0.887***	1			
	STAI状態不安	0.314***	0.459***	0.418***	1		
親	STAI特性不安	0.330***	0.465***	0.436***	0.631***	1	
	STAI総得点	0.345***	0.504***	0.462***	0.900***	0.895***	1
	PSI子ども側面	1					
母	PSI親側面	0.517***	1				
	PSI総得点	0.831***	0.891***	1			
	STAI状態不安	0.354***	0.571***	0.538***	1		
	STAI特性不安	0.402***	0.618***	0.593***	0.727***	1	
親	STAI総得点	0.403***	0.641***	0.608***	0.918***	0.934***	1

Spearmanの順位相関係数の検定. ***: P < 0.001.

親に比べて有意に高く ($p < 0.001$), 特性不安も母親が父親に比べて有意に高かった ($p < 0.01$). 特性不安段階も母親が父親に比べて有意に高かった ($p < 0.001$) が, 状態不安段階は父親と母親間で有意差がみられなかった.

父親と母親の育児ストレスと不安の各尺度得点の相関

父親と母親の育児ストレスと不安の各尺度得点の相関を表4に示す.

父親, 母親ともに, PSI総得点とSTAI総得点の間で, またそれぞれの下位尺度であるPSI子ど

も側面, PSI親側面, 状態不安, 特性不安のすべての尺度について, 得点間に有意な正の相関関係があった ($p < 0.001$).

父親と属性別の尺度総得点と下位尺度得点の比較

父親の尺度総得点と下位尺度得点の属性別に比較した結果を表5に示す.

属性に関して, 子どもの性別や数, 父親の年齢, 職業の有無, 勤務先, 勤務形態, 住まい, 地域環境や最終学歴のいずれも有意差はみられなかった. 子どもの年齢で, STAI特性不安とSTAI総得点で有意差がみられた (それぞれ $p < 0.01$, $p <$

表5 父親の属性別各尺度得点の比較

属性	項目	PSI子ども側面	P値	PSI親側面	P値	PSI総得点	P値	STAI状態不安	P値	STAI特性不安	P値	STAI総得点	P値
子どもの性別	男児	87.1 ± 38.6	0.453	92.9 ± 20.2	0.650	180.0 ± 47.4	0.985	40.3 ± 9.3	0.164	40.6 ± 8.9	0.759	80.8 ± 16.6	0.304
	女児	86.3 ± 15.9		92.4 ± 18.6		178.6 ± 31.5		42.5 ± 9.3		41.1 ± 9.1		83.6 ± 16.7	
子どもの年齢	0歳代	90.2 ± 14.5	0.518	102.2 ± 17.0	0.071	192.3 ± 29.0	0.344	43.2 ± 8.9	0.059	44.4 ± 7.0	0.008 **	87.5 ± 13.5	0.011 *
	1歳代	95.0 ± 70.0		86.4 ± 14.2		181.4 ± 71.1		38.2 ± 7.8		38.0 ± 7.6		76.2 ± 13.1	
	2歳代	82.5 ± 18.2		94.0 ± 18.2		176.5 ± 33.6		41.9 ± 10.9		43.5 ± 9.8		85.4 ± 18.8	
	3歳代	88.6 ± 17.4		95.4 ± 20.9		183.9 ± 34.3		42.2 ± 10.1		40.2 ± 9.9		82.4 ± 18.8	
	4歳代	85.1 ± 18.5		92.1 ± 19.7		177.2 ± 35.2		41.1 ± 8.4		41.3 ± 8.9		82.4 ± 15.3	
	5歳代	86.0 ± 17.2		94.8 ± 21.4		180.8 ± 35.0		42.4 ± 8.7		41.5 ± 7.9		83.9 ± 15.0	
	6歳代	82.4 ± 13.2		86.3 ± 15.8		168.7 ± 24.1		36.2 ± 8.2		35.5 ± 6.0		71.6 ± 12.8	
子どもの数	1人	92.3 ± 50.5	0.873	92.5 ± 18.7	0.551	184.8 ± 55.3	0.946	42.0 ± 10.6	0.247	41.3 ± 10.1	0.960	83.3 ± 18.4	0.639
	2人	85.2 ± 17.9		91.9 ± 18.5		177.1 ± 33.1		40.2 ± 8.5		40.5 ± 7.7		80.7 ± 14.7	
	3人	85.5 ± 17.5		95.4 ± 22.0		180.9 ± 36.2		42.1 ± 9.0		40.7 ± 9.2		82.8 ± 16.6	
	4人	82.7 ± 15.4		92.2 ± 22.0		174.8 ± 33.3		40.7 ± 12.6		41.8 ± 14.0		82.5 ± 25.9	
	5人以上	84.4 ± 19.7		102.4 ± 9.3		186.8 ± 27.1		46.8 ± 4.5		43.0 ± 5.9		89.8 ± 10.3	
親の年齢	10~20歳代	96.5 ± 66.0	0.380	94.9 ± 17.6	0.455	191.4 ± 67.7	0.391	39.6 ± 9.3	0.296	39.5 ± 8.2	0.745	79.2 ± 16.1	0.506
	30歳代	85.3 ± 16.6		93.4 ± 19.2		178.6 ± 32.4		42.0 ± 9.4		41.4 ± 8.8		83.4 ± 16.3	
	40歳代	84.6 ± 17.6		89.4 ± 22.1		174.1 ± 36.9		39.4 ± 8.7		40.1 ± 10.0		79.5 ± 17.4	
	50歳代	94.4 ± 21.6		99.7 ± 18.2		194.1 ± 39.0		42.6 ± 8.7		40.0 ± 5.2		82.6 ± 12.4	
職業	有	87.8 ± 32.6	0.818	93.2 ± 19.8	0.858	181.1 ± 42.6	0.866	41.1 ± 9.2	0.105	40.7 ± 8.8	0.850	81.8 ± 16.3	0.243
	無	90.0 ± 0.0		96.0 ± 0.0		186.0 ± 0.0		55.0 ± 0.0		43.0 ± 0.0		98.0 ± 0.0	
勤務先	会社員	88.3 ± 33.2	0.493	94.2 ± 19.8	0.475	182.5 ± 42.9	0.407	41.6 ± 9.5	0.158	40.9 ± 8.8	0.731	82.6 ± 16.5	0.291
	公務員	80.1 ± 18.9		88.0 ± 20.3		168.1 ± 36.0		39.0 ± 7.9		39.2 ± 9.5		78.2 ± 16.4	
	自営業	85.8 ± 13.8		89.9 ± 14.8		175.7 ± 26.2		40.1 ± 8.8		41.2 ± 8.3		81.3 ± 14.2	
	パート	86.0 ± 0.0		109.0 ± 0.0		195.0 ± 0.0		49.0 ± 0.0		48.0 ± 0.0		97.0 ± 0.0	
	主婦(主夫)	90.0 ± 0.0		96.0 ± 0.0		186.0 ± 0.0		55.0 ± 0.0		43.0 ± 0.0		98.0 ± 0.0	
住まい	一戸建て	87.0 ± 36.7	0.220	92.5 ± 19.9	0.607	179.5 ± 46.0	0.421	40.7 ± 9.1	0.108	40.5 ± 9.0	0.318	81.2 ± 16.2	0.153
	集合住宅	87.0 ± 16.1		93.5 ± 19.1		180.5 ± 31.6		42.2 ± 9.4		41.4 ± 8.5		83.5 ± 16.5	
家族構成	核家族	89.6 ± 35.6	0.011 *	93.7 ± 20.1	0.673	183.3 ± 44.8	0.094	41.2 ± 9.5	0.906	40.8 ± 9.0	0.886	82.1 ± 16.8	0.983
	拡大家族	82.7 ± 16.1		92.0 ± 18.3		174.6 ± 31.6		41.3 ± 8.8		40.9 ± 8.7		82.2 ± 15.7	
地域環境	住宅地域	86.9 ± 17.4	0.417	92.6 ± 19.9	0.407	179.5 ± 34.4	0.489	41.2 ± 9.6	0.639	40.5 ± 8.9	0.180	81.7 ± 16.9	0.339
	商店の多い地域	86.3 ± 13.1		97.1 ± 16.1		183.5 ± 26.6		42.7 ± 9.4		43.8 ± 9.5		86.5 ± 16.8	
	工場の多い地域	75.0 ± 0.0		62.0 ± 0.0		137.0 ± 0.0		27.0 ± 0.0		34.0 ± 0.0		61.0 ± 0.0	
	田園地域	89.2 ± 60.7		90.7 ± 18.7		179.9 ± 65.1		41.0 ± 8.0		39.3 ± 8.5		80.2 ± 14.8	
	団地	87.5 ± 14.5		96.4 ± 14.9		183.9 ± 23.8		42.5 ± 8.7		43.8 ± 6.3		86.3 ± 13.8	
その他	74.3 ± 26.2		97.5 ± 6.7		171.8 ± 29.3		42.3 ± 20.2		42.3 ± 16.2		84.5 ± 36.1		
最終学歴	中学校	84.5 ± 17.5	0.258	90.2 ± 20.0	0.737	174.7 ± 34.3	0.420	44.2 ± 10.1	0.253	41.8 ± 9.7	0.669	86.0 ± 17.3	0.415
	高校	89.8 ± 39.0		93.6 ± 19.0		183.5 ± 46.7		40.8 ± 9.7		40.7 ± 8.7		81.5 ± 16.8	
	専門学校	86.3 ± 18.4		95.3 ± 22.1		181.6 ± 35.0		43.0 ± 9.6		40.9 ± 10.1		83.9 ± 18.1	
	高等専門学校	87.3 ± 13.0		96.2 ± 9.4		183.6 ± 17.1		42.9 ± 3.7		42.8 ± 6.2		85.7 ± 9.5	
	短大	95.6 ± 16.9		103.1 ± 27.4		198.7 ± 41.4		43.1 ± 7.0		44.4 ± 9.7		87.6 ± 15.4	
	大学	81.8 ± 16.8		90.3 ± 19.5		172.1 ± 33.4		40.3 ± 8.1		40.2 ± 8.4		80.6 ± 14.5	
その他	82.0 ± 14.7		90.4 ± 22.9		172.4 ± 37.2		36.0 ± 12.2		35.2 ± 9.5		71.2 ± 21.2		

Mann-Whitney のU検定あるいはKruskal Wallis の検定。* : P < 0.05, ** : P < 0.01.

表6 母親の属性別各尺度得点の比較

属性	項目	PSI子ども側面	P値	PSI親側面	P値	PSI総得点	P値	STAI状態不安	P値	STAI特性不安	P値	STAI総得点	P値
子どもの性別	男児	85.7 ± 17.4	0.777	101.6 ± 21.1	0.778	187.2 ± 33.7	0.884	43.7 ± 10.5	0.369	42.9 ± 10.7	0.779	86.6 ± 19.9	0.592
	女児	84.7 ± 15.9		102.4 ± 20.9		187.1 ± 32.4		44.4 ± 9.7		43.2 ± 9.6		87.6 ± 17.8	
子どもの年齢	0歳代	86.2 ± 22.1	0.196	99.8 ± 31.0	0.526	186.0 ± 51.0	0.159	42.5 ± 14.0	0.709	41.2 ± 13.2	0.786	83.7 ± 26.3	0.775
	1歳代	79.1 ± 14.1		96.3 ± 17.7		175.4 ± 23.7		42.7 ± 8.0		42.4 ± 9.5		85.1 ± 16.2	
	2歳代	85.2 ± 19.4		102.9 ± 19.9		188.1 ± 33.8		44.5 ± 11.7		43.1 ± 12.1		87.6 ± 22.2	
	3歳代	85.5 ± 15.5		100.7 ± 20.3		186.2 ± 31.9		43.3 ± 10.3		42.1 ± 10.0		85.4 ± 18.5	
	4歳代	85.8 ± 15.3		102.5 ± 21.2		188.3 ± 31.2		45.3 ± 9.3		43.4 ± 9.6		88.6 ± 17.4	
	5歳代	86.6 ± 17.0		104.6 ± 22.7		191.2 ± 36.3		44.3 ± 9.3		44.1 ± 9.5		88.4 ± 17.8	
	6歳代	84.6 ± 18.6		102.3 ± 16.1		186.9 ± 29.8		44.6 ± 11.5		42.2 ± 9.1		86.8 ± 19.7	
子どもの数	1人	85.8 ± 16.0	0.515	100.3 ± 19.8	0.749	186.1 ± 29.6	0.646	44.1 ± 10.0	0.889	42.2 ± 9.5	0.821	86.3 ± 18.2	0.912
	2人	85.5 ± 16.7		103.1 ± 20.7		188.6 ± 33.4		44.0 ± 10.2		43.3 ± 9.9		87.3 ± 18.8	
	3人	82.8 ± 17.7		101.3 ± 23.3		184.0 ± 37.0		44.5 ± 9.6		43.4 ± 11.0		87.9 ± 19.0	
	4人	84.8 ± 15.9		105.2 ± 15.4		190.0 ± 29.5		43.7 ± 12.1		44.6 ± 12.5		88.3 ± 22.9	
	5人以上	92.7 ± 16.5		106.3 ± 2.5		199.0 ± 17.1		39.0 ± 7.5		41.7 ± 8.4		80.7 ± 15.7	
親の年齢	10~20歳代	83.8 ± 16.2	0.646	99.6 ± 22.4	0.080	183.4 ± 33.0	0.187	43.7 ± 9.7	0.606	42.6 ± 10.2	0.737	86.3 ± 18.7	0.770
	30歳代	85.7 ± 16.8		103.1 ± 19.7		188.8 ± 32.6		44.1 ± 10.2		43.3 ± 10.2		87.3 ± 18.8	
	40歳代	84.5 ± 18.0		101.4 ± 23.5		185.9 ± 35.6		45.4 ± 9.8		42.7 ± 9.6		88.1 ± 18.4	
職業	有	84.5 ± 16.9	0.444	101.5 ± 21.3	0.242	186.1 ± 33.6	0.210	44.0 ± 10.1	0.240	42.9 ± 10.2	0.189	86.9 ± 18.9	0.194
	無	86.7 ± 15.5		105.5 ± 18.8		192.2 ± 29.6		45.2 ± 10.0		44.6 ± 9.1		89.7 ± 17.0	
勤務先	会社員	84.8 ± 17.5 a	0.031 *	101.9 ± 19.9	0.031 *	186.7 ± 32.9 a	0.011 *	44.5 ± 9.8 a	0.009 **	42.9 ± 9.6	0.382	87.4 ± 18.1	0.061
	公務員	75.7 ± 16.9 abc		91.2 ± 20.2 ab		166.9 ± 33.1 abc		39.0 ± 8.5 ab		40.2 ± 8.9		79.2 ± 16.4	
	自営業	80.6 ± 13.9		95.5 ± 13.0		176.1 ± 21.3		43.6 ± 6.2		40.5 ± 5.2		84.1 ± 9.6	
	パート	86.3 ± 15.6 b		103.8 ± 21.9 a		190.1 ± 33.2 b		44.9 ± 10.4		43.6 ± 11.2		88.5 ± 20.3	
	主婦	87.1 ± 17.2 c		105.2 ± 19.6 b		192.3 ± 31.7 c		44.9 ± 10.1 b		44.0 ± 9.4		88.9 ± 17.1	
	学生	86.5 ± 6.4		115.0 ± 17.0		201.5 ± 23.3		32.0 ± 11.3		38.5 ± 0.7		70.5 ± 12.0	
住まい	一戸建て	84.6 ± 17.5	0.334	102.0 ± 20.9	0.768	186.7 ± 34.5	0.715	44.2 ± 10.0	0.504	43.1 ± 10.0	0.889	87.3 ± 18.5	0.581
	集合住宅	85.8 ± 15.6		101.9 ± 20.9		187.6 ± 30.8		44.0 ± 10.1		43.0 ± 10.2		87.0 ± 19.1	
家族構成	核家族	84.5 ± 17.0	0.558	101.9 ± 22.1	0.684	186.4 ± 33.9	0.669	44.3 ± 10.1	0.942	43.3 ± 10.2	0.470	87.5 ± 19.1	0.724
	拡大家族	86.1 ± 16.2		101.9 ± 18.6		188.0 ± 31.2		43.8 ± 9.9		42.6 ± 9.8		86.4 ± 18.1	
地域環境	住宅地	85.8 ± 17.1	0.120	103.0 ± 21.3	0.170	188.8 ± 33.5	0.055	43.9 ± 10.0	0.352	43.5 ± 10.2	0.041 *	87.5 ± 18.8	0.217
	商店の多い地域	83.4 ± 17.5		97.2 ± 17.5		180.6 ± 31.2		40.5 ± 9.0		41.9 ± 10.3		82.5 ± 17.8	
	工場の多い地域	101.0 ± 0.0		107.0 ± 0.0		208.0 ± 0.0		69.0 ± 0.0		67.0 ± 0.0		136.0 ± 0.0	
	田園地域	82.6 ± 16.5		99.8 ± 21.7		182.4 ± 34.0		44.3 ± 11.2		42.0 ± 9.7		86.3 ± 19.9	
	団地	85.8 ± 15.3		103.2 ± 19.1		189.0 ± 28.6		44.5 ± 8.9		41.4 ± 9.5		85.9 ± 16.7	
	その他	74.6 ± 10.4		88.2 ± 9.5		162.8 ± 15.7		41.7 ± 6.6		35.3 ± 6.1		77.0 ± 11.9	
最終学歴	中学校	84.5 ± 17.2	0.021 *	101.8 ± 16.4	0.426	186.2 ± 29.7	0.204	48.3 ± 8.3	0.285	45.7 ± 10.7	0.512	94.0 ± 18.6	0.361
	高校	86.2 ± 16.0		101.0 ± 19.5		187.2 ± 31.5		44.3 ± 9.2		43.3 ± 9.2		87.7 ± 16.8	
	専門学校	86.0 ± 16.2		101.0 ± 21.9		187.0 ± 33.7		44.5 ± 10.4		42.3 ± 11.5		86.8 ± 20.4	
	高等専門学校	90.3 ± 10.0		104.4 ± 15.1		194.8 ± 18.6		44.9 ± 12.3		43.0 ± 11.4		87.9 ± 23.4	
	短大	83.3 ± 15.9		103.9 ± 22.5		187.2 ± 32.7		44.1 ± 10.8		43.4 ± 10.7		87.4 ± 20.1	
	大学	78.7 ± 20.5		99.4 ± 21.8		178.1 ± 38.0		41.0 ± 10.1		40.4 ± 9.2		81.4 ± 18.1	
	その他	112.5 ± 7.8		136.5 ± 10.6		249.0 ± 2.8		45.0 ± 2.8		50.0 ± 11.3		95.0 ± 8.5	

Mann-Whitney の U 検定あるいはKruskal Wallis の検定. Bonferroni の検定にて同じ文字同士は有意差あり. * : P < 0.05.

0.05). また、家族構成では、核家族が拡大家族よりもPSI子ども側面得点が有意に高かった ($p < 0.05$).

母親と属性別の尺度総得点と下位尺度得点の比較

母親の尺度総得点と下位尺度得点の属性別に比較した結果を表6に示す。

属性に関して、子どもの性別、年齢や数、母親の年齢、職業の有無、勤務形態、住まいや家族構成のいずれも有意差はみられなかった。勤務先で、PSI子ども側面、PSI親側面、PSI総得点、STAI状態不安で有意差がみられ (それぞれ $p < 0.05$, $p < 0.05$, $p < 0.05$, $p < 0.01$)、公務員が最も低かった。また、地域環境ではSTAI特性不安で、最終学歴ではPSI子ども側面で有意差が認められた (それぞれ $p < 0.05$, $p < 0.05$).

考 察

今回の調査対象の親の背景は、父親および母親ともに30歳代が最も多く、職業、子どもの数、子どもの年代、住まい、家族構成、地域環境も同じものがともに最も多かった (表1)。岡本²⁹⁾、吉永¹⁰⁾、村上ら¹³⁾の保育園児の母親と父親、母親の育児ストレス研究での背景の結果と同様で、一般的な保育園児を持つ親を対象にしたと思われる。

標準的と思われる保育園児の親を対象にした育児のストレスや不安を考える際、日本の現状²⁾を考慮する必要がある。日本は、低い合計特殊出生率、急速に進行する少子化で、2005年には死亡数が出生数を上回り、国勢調査結果でも総人口が減少局面に入っている。このような背景には、雇用の不安、仕事と生活の調和の問題のほかに、育児不安の問題や出産・子育てと働き方をめぐる問題が存在している。Abidin²⁾は、育児ストレスを親としての要求に直面しそれに応えようとする個々の挑戦の結果生じる一連の心理的および生理的プロセスと定義している。また、奈良間ら¹³⁾は、親の育児ストレスが親のパーソナリティやソーシャル・サポート、子どもの気質的な特徴と関連性があるという。

PSIの父親と母親の比較では、下位尺度の子ども側面ストレスは父親と母親間で差はみられなかったが、親側面ストレスとPSI総得点については母親が有意に高かった (表2)。母親と父親の育児ストレスを比較した先行研究で、北村ら¹⁴⁾は、母親は育児によって、母親自身の時間が取れないこ

とや行動の制限がストレスと関連していると述べており、石と桂田¹⁵⁾は、父親 (夫) からのサポートの程度と母親の育児不安には関連があると述べている。また、母親の育児ストレスを分析した先行研究で、吉永¹⁰⁾は、母親の社会的孤立と育児ストレスに関連があると述べており、園部ら¹⁶⁾は、母親が必要な時に支援を受けるネットワークを保持していることが社会的孤立のストレス軽減と関連があると述べている。荒木ら¹⁷⁾や久保ら¹⁸⁾は、母親の身体や精神の健康状態と育児ストレスに関連があったという。さらに、今回、母親が育児ストレスの親側面ストレスが父親より高い結果となった要因として、配偶者である父親 (夫) との関係、孤立感、健康状態や親役割による規制によることも考えられる。母親は、親側面ストレスが父親よりも高く、その結果、育児ストレス尺度全体の得点が増加し、育児ストレス総得点でも母親が父親よりも高くなったと考えられる。地域のつながりが以前と比べて希薄化する一方、父親は仕事、育児は母親、という以前と変わらない社会通念が存在する。父親の育児参加が十分に得られない中で、母親は、孤立し、生活での規制を受け、育児の困難さを感じていると思われる。

宮本と藤崎¹⁹⁾は、父親の育児ストレスの研究は少ないと述べており、その理由として父親の育児参加が少ないことと保健医療従事者が育児中の父親と接する機会が限られており、研究対象とすることが困難であることを挙げている。少ない父親の育児ストレスについての研究で、清水²⁰⁾は、父親が受ける育児ストレスの特性として子ども側面からのものがみられ、その理由を父親は母親と比べ、日頃育児を中心的に担っているということではなく、子どもの成長や発達をとらえながら接することが多いことだとしている。本研究では子ども側面ストレスは、父親の得点が母親よりもわずかに高かったが、父親と母親間に違いはみられなかった。父親は、育児は母親がすることという意識があり、子どもと接する時間も少なく、ストレスも子どもの外観から受けていることが、母親より育児ストレスが少ない理由と考える。

STAIの父親と母親の比較では、下位尺度の状態不安と特性不安と不安尺度総得点のすべてで母親が父親よりも高く、また、状態不安段階と特性不安段階の比較では、母親が父親よりも特性不安段階が高かった (表3)。舟越ら²¹⁾は、母親の育児

不安との関連をみた調査から、母親は父親（夫）に育児や家事等の実質的な支援が無理でも精神的支援は欲しいと思っており、父親の育児参加が少ないことが、母親の育児による制約感や不満が高くなると述べている。また、岡本²⁰は、保育園児の父親と母親の抑うつ状態を比較した結果、母親の方が高かったという。育児の中心的な役割を担うのは母親で、母親としてのあり様が抑うつ状態に関連し、また、地域での関わりを中心的に担うのが女性である場合が多く、その負担感も関連していると述べている。

状態不安は、不安を喚起する事象に対する一過性の状況反応であり、状態不安尺度は、懸念、緊張、神経質、悩みなどを査定するものである。特性不安は、さまざまな場面で不安になりやすい個人の特徴であり、特性不安尺度は、抑うつ感情など臨床的不安を査定するものである。母親は、育児による制約感、親としての役割、父親の育児支援の不足、地域との関わり、仕事と家庭の両立で受けたストレスが日常的になり、懸念や緊張や悩みなどの不安を父親より強く感じ、母親が父親よりも状態不安が高かったと考える。また、母親は育児で受けるストレスが日常的となり、不安になりやすく、抑うつ感情などにも影響を及ぼし、その結果、母親が父親よりも特性不安が高かったと考える。

父親と母親で、育児ストレスと不安尺度との間に、また、それぞれの下位尺度のすべてで強い正の相関関係がみられた（表4）。先行研究には、本研究と同じ尺度間同士での相関関係を父親と母親で検討したものはみられなかった。堀田と山口²¹は、本研究とは異なる育児ストレスと不安の尺度を用い、母親を対象にした調査で各尺度間の相関関係を検討した結果、子ども関連ストレスと状態不安および特性不安との相関関係がみられたと述べている。また、岡本²⁰は、父親を対象にした調査で、育児ストレスと抑うつ症状とに関連があったと述べている。これらは本研究とは異なった尺度を使用しており、また、すべての尺度間での相関関係はみられなかった。育児は日常的なことである。育児で受けるストレスは生活全般に影響を及ぼし、絶えずストレスを受け続けることで、ストレスが蓄積し、不安や抑うつ症状が生じ、育児ストレスと不安との間に正の相関関係があったと考える。ストレスや不安を強く感じている母親だ

けでなく、父親にも育児ストレスと不安との間に関連があるのも同様の理由であると考えられる。

親の属性と育児ストレスの各尺度と不安の各尺度間での関連を検討した先行研究は少ない。桑名と桑名²⁴は、家族構成の違いと父親のPSIの子ども側面ストレスとは違いはなく、父親の年齢や学歴とで違いがみられたと述べている。本研究では父親の育児ストレス尺度と属性について、子ども側面ストレスのみ、家族構成で有意差がみられ、核家族が拡大家族に比べて有意に高く、桑名と桑名²⁴の結果とは異なっていた（表5）。父親は、核家族では同居する家族数が少ないため、不慣れた育児に関わる必要があり、不慣れた育児に関わることで核家族の方が拡大家族よりも子ども側面から受けるストレスが高くなったと考える。また、父親の不安尺度については、子どもの年齢によって状態不安や特性不安に有意な差がみられ、0歳代が高かった。父親は育児に不慣れであり、子どもと接する時間も母親よりも少なく、子どもの外観や行動などの様子からのストレスを受けやすい。子どもが生まれてしばらくすると子どもの行動や表情に慣れてくるが、成長や発達にうまく順応できず、それがストレスや不安として感じ、子どもの年齢によって受ける不安に違いが生じたと考えられる。

母親は、勤務先の違いで、子ども側面、親側面、育児ストレス総得点、状態不安に差がみられ（表6）、公務員の得点が低かった。本研究は公立保育園児の親を対象にしたが、いずれも産業や商業が盛んな地域ではなかった。公務員であることは経済面でも他の勤務先の親よりも安定していたため、育児で受けるストレスに影響を与えたと考えられる。

母親は、育児を担うことにより、母親自身の時間が取れないことにストレスを受け、社会的な孤立感を抱くことになる。また、父親（夫）も、育児で受けている母親のストレスの理解不足によりストレスを受け、身体面や精神的な負担が健康面にも影響が生じるようになる。父親だけでなく、家族や地域も、父親（夫）や周囲などから母親をサポートすることで、母親の育児ストレスが軽減することを理解する必要がある。父親を含めた家族や地域の理解が進むことで、母親の育児懸念、緊張や悩みなどの不安を防ぐことになる。このような変化は、ストレスや不安を母親ほど強く受け

ていない父親のストレスを減弱させ、父親の育児参加を促進することに繋がると思われる。

育児は、個人の私的な活動と思われがちであるが、見方によっては公と関係の深い活動といえることができる。育児は、一つの家族の1人の親や、母親と父親の1組の夫婦が子どもを育てるものであり、極めて私的な活動ではあるが、育児支援を進めていくことは、公的な活動ともいえるものである。今後も少子化や高齢化が進んでいく日本の現状や将来を考えれば、育児を一人の母親が担うのではなく、父親が協力し、家族も育児を担い、さらに社会全体で育児を支えていこうとする考え方を共有する必要がある。とりわけ、母親の育児の困難感や不安感を軽減していく必要があると思われる。

結 語

育児ストレス尺度 (PSI) と不安尺度 (STAI) を用いて、公立保育園児の父親304人と母親415人を対象に、育児で受けるストレスと不安を比較して、親の属性との関連を検討した。育児ストレスでは、親側面と育児ストレス総得点で母親が父親より高かった。不安では、状態不安と特性不安と不安総得点と特性不安段階で母親が父親より高かった。また、父親と母親の育児ストレス尺度と不安尺度の低位尺度も含めたすべての尺度間で正の相関関係がみられた。さらに、父親は、属性の子どもの年齢と状態不安、特性不安、不安総得点で差が見られた。母親は、属性の勤務先と子ども側面、親側面、育児ストレス総得点で差がみられた。

母親は、育児による親役割により規制、父親(夫)との関係、社会的孤立、健康状態からストレスを受け、父親に比べて育児ストレスや不安状態が高い可能性が示唆された。母親の育児ストレスや不安を軽減させるために、父親(夫)や周囲など、社会全体で育児を支える必要があると考える。

稿を終えるにあたり、懇切なるご指導とご校閲を賜りました鳥取大学医学部保健学科基礎看護学講座荻野浩教授に深甚なる謝意を捧げます。また、本調査にあたり、ご協力いただきました保育園児の父親と母親の皆様へ深謝いたします。

文 献

- 1) 柳原真知子. 父親の育児参加の実態. 天使大
学紀要 2007; 7: 47-56.
- 2) Abidin RR: The determinants of parenting
behavior. J Clinical Child Psychology 1992;
21: 407-412.
- 3) Abidin RR: Parenting stress index manual.
3rd ed, Charlottesville, VA: Pediatric
Psychology Press; 1990.
- 4) 兼松百合子, 荒木暁子, 奈良間美保, 白畑範子,
丸光恵, 荒屋敷亮子. PSI育児ストレスイン
デックス. 東京, 雇用問題研究会. 2006.
- 5) 中村美保, 兼松百合子, 丸光恵, 工藤美子,
武田淳子, 内田雅代, 古谷佳由理, 白畑範子.
日本語版Parenting stress index (PSI) の信
頼性・妥当性の検討 日本看護学会誌
1995; 15: 43.
- 6) Spielberger CD, Gorsuch RL, Lushene
R. Manual for the State-Trait Anxiety
Inventory. Palo Alto, CA: Consulting
Psychologist Press; 1970.
- 7) 肥田野直, 福原真知子, 岩脇三良, 曾我祥子,
Spielberger CD. 新版STAIマニュアル. 東京,
実務教育出版. 2000.
- 8) 岡本絹子. 保育園児をもつ親のストレスと抑
うつ症状の検討－父親と母親の比較－. 吉
備国際大学保健科学部研究紀要 2008; 13:
11-17.
- 9) 岡本絹子. Zung自己評価式抑うつ尺度を用
いた育児中の親の抑うつ状態に関する研究-
父親と母親の比較-. 吉備国際大学保健科学
部研究紀要 2007; 12: 11-16.
- 10) 吉永茂美. 母親が期待するソーシャル・サポ
ートの実態と育児ストレス、ストレス反
応との関係－1～6歳児をもつ母親を対象に
－. 小児保健研究 2007; 66: 675-681.
- 11) 村上京子, 飯野英親, 塚原正人, 辻野久美子.
乳幼児を持つ母親の育児ストレスに関する要
因の分析. 小児保健研究 2005; 64: 425-431.
- 12) 「新新エンゼルプラン」(子ども・子育て応援
プラン). 少子化社会対策大綱(平成16年6月
4日閣議決定) 2004.
- 13) 奈良間美保, 兼松百合子, 荒木暁子, 丸光恵,
中村伸枝, 武田淳子, 白畑範子, 工藤美子.
日本版 Parenting Stress Index (PSI) の信
頼性・妥当性の検討. 小児保健研究 1999;
58: 610-616.

- 14) 北村眞弓, 土屋直美, 細井志乃ぶ. 子どもの年齢別にみた母親の育児ストレス状況とストレス関連要因の検討-父親との比較に焦点をあてて-. 日本看護医療学会雑誌 2006; 8: 11-20.
- 15) 石曉玲, 桂田恵美子. 夫婦間コミュニケーションの視点からの育児不安の検討-乳幼児をもつ母親を対象とした実証的研究-. 母性衛生 2006; 47: 222-229.
- 16) 園部真美, 白川園子, 廣瀬たい子, 寺本妙子, 高橋泉, 平松真由美, 斉藤早香枝, 山崎道子, 三国久美, 岡光基子. 母親の社会的ネットワークと母子相互作用, 子どもの発達, 育児ストレスに関する研究. 小児保健研究 2006; 65: 405-414.
- 17) 荒木暁子, 兼松百合子, 荒屋敷亮子, 相墨生恵, 横沢せい子, 遠藤邑子. 1~2歳児を育てる母親の育児ストレスの1年間の変化~日本版 Parenting Stress Index を用いた調査より~. チャイルドヘルス 2003; 6: 941-945.
- 18) 久保恭子, 田村毅, 田崎知恵子, 及川裕子, 徳弘恵美. 乳児をもつ母親の特徴と育児支援. 東京学芸大学紀要 総合教育科学系II 2010; 61: 77-83.
- 19) 宮本知子, 藤崎春代. 日本における乳幼児期の子どもをもつ父親研究の動向. 昭和女子大学生生活心理研究所紀要 2009; 11: 57-66.
- 20) 清水嘉子. 父親の育児ストレスの実態に関する研究. 小児保健研究 2006; 65: 26-34.
- 21) 舟越和代, 榮玲子, 小川佳代, 野口純子, 三浦浩美, 松村恵子. 乳幼児期の子どもをもつ母親の育児ストレス(第2報)-対象特性からみた育児ストレス-. 香川県立医療短期大学紀要 2003; 5: 17-24.
- 22) 堀田法子, 山口(久野)孝子. 6か月児をもつ母親の精神状態に関する研究(第1報)-不安, 抑うつと育児ストレスとの関連から-. 小児保健研究 2005; 64: 3-10.
- 23) 岡本絹子. 1歳6か月児を持つ父親の抑うつ症状と関連要因. 小児保健研究 2005; 64: 560-569.
- 24) 桑名行雄, 桑名佳代子. 1歳6ヵ月児をもつ父親の育児ストレス-親役割認知および性役割態度との関連-. こころの健康 2006; 21: 42-54.